

會 告 日本鐵鋼協會

日本標準規格 私費印刷分讓の件

1. 内容、形式、寸法共 商工省御編纂 のものと同一なり。
2. 代金は 1 枚に付き 金壹錢也とす。
但し郵税は實費。第四種郵便にて 17 枚迄で 2 錢 18 以上 36 枚迄で 4 錢 其れ以上は 20 枚内毎 2 錢増しのこと。

本會の發行 日本標準規格目次

規格類別 番號	類別 番號	名稱	決定 年月日 大正	商工 省 告示 番 號	右同 告示 年月日 大正	枚 數	規格類別 番號	類別 番號	名稱	決定 年月日 大正	商工 省 告示 番 號	右同 告示 年月日 昭和	枚 數
第1號	B1	金屬材料抗張試驗片	11.10.19	43	14.3.5	2	40	H1	銅板	15.6.23	30	2.10.22	3
2	B2	針金の徑、薄板の厚 及其の稱呼	〃	44	〃	1	41	H2	黃銅板	〃	31	〃	3
3	Z1	寸法標準數	13.3.27	17	14.9.18	1	42	H3	アルミニウム板	〃	32	〃	3
4	Z2	等比標準數	〃	〃	〃	1	43	H4	銅棒	〃	33	〃	3
5	G1	鍛鋼品	〃	9	〃	4	44	H5	ネーバル黃銅棒	〃	34	〃	3
6	G2	鑄鋼品	〃	10	〃	4	45	H6	高力黃銅棒	〃	35	〃	3
7	G3	鑄物用銑鐵	〃	11	〃	1	46	H7	火延黃銅棒	〃	36	〃	3
15	G4	水管罐用繼目無鋼管	14.3.27	18	15.10.26	3	47	H8	挽物用黃銅棒	〃	37	〃	2
16	G5	圓罐用繼目無鋼管	〃	19	〃	3	48	H9	繼目無鋼管	〃	38	〃	3
17	G6	機關車罐用繼目無鋼管	〃	20	〃	2	49	H10	機關車罐用繼目無 黃銅管	〃	39	〃	2
18	G7	一般用繼目無鋼管	〃	21	〃	3	50	H11	復水器用繼目無黃銅管	〃	40	〃	2
19	G8	瓦斯管	〃	22	〃	1	51	H12	復水器パッキング 抑用繼目無黃銅管	〃	41	〃	2
20	G9	構造(橋梁、建築其 の他)用壓延鋼材	〃	23	〃	6	52	H13	一般用繼目無黃銅管	〃	42	〃	3
21	G10	造船用壓延鋼材	〃	24	〃	5	53	H14	銅地金	〃	43	〃	1
22	G11	罐用壓延鋼材	〃	25	〃	6	54	K1	銅地金分析方法	〃	18	昭和 3.5.23	12
23	G12	鐵道車輛用壓延鋼材	〃	26	〃	6	55	K2	鐵及鋼炭素分析方法	2.10.3	20	昭和 4.5.13	5
24	G13	壓延鋼材の寸法及 重量の公差	〃	27	〃	2	56	K3	鐵及鋼珪素分析方法	〃	〃	〃	5
25	G14	標準棒鋼	昭和 2.10.3	28	昭和 4.5.13	4	77	G18	罐用繼目無鋼管の寸法	3.10.18	32	昭和 5.6.2	1
26	G15	標準形鋼	〃	29	〃	16	78	G19	一般用繼目無鋼管 の寸法	〃	23	〃	2
36	B8	管用れぢ	大正 15.6.23	26	昭和 2.10.22	1	79	G20	可鍛鑄鐵品	〃	24	〃	3
37	B9	管接手れぢ	〃	27	〃	1	80	G21	水道用鑄鐵管	〃	25	〃	4
38	G16	瓦斯管の寸法	〃	28	〃	1	81	H15	水道用鉛管	〃	26	〃	3
39	G17	鋸	〃	29	〃	9	82	H16	亞鉛地金	〃	27	〃	2
							83	K4	亞鉛地金分析方法	〃	—	—	10

以上の外設計上の參考及製作規格等本會に關係するも多々あれども追ふて發行するものとす。

實物寸法 159mm 四寸一分五厘

JES 日本標準規格 第55号

類別 K2

頁 1

鐵及鋼炭素分析方法

第一章 總則

第二章 炭素鋼及鐵炭素分析方法

第三章 炭素分析方法(全炭素、遊離炭素及化合炭素)定置法トス

第四章 全炭素定置法トス

一、要旨

二、裝置(用回參照)

三、試驗法

昭和二年十月三日決定 工業品規格統一調査會

日本標準規格 第26号

類別 G15

頁 1

管形鋼